

稲・大豆作情報（NO. 3）

1. 水稻作況情報田の生育概況（7月16日現在）

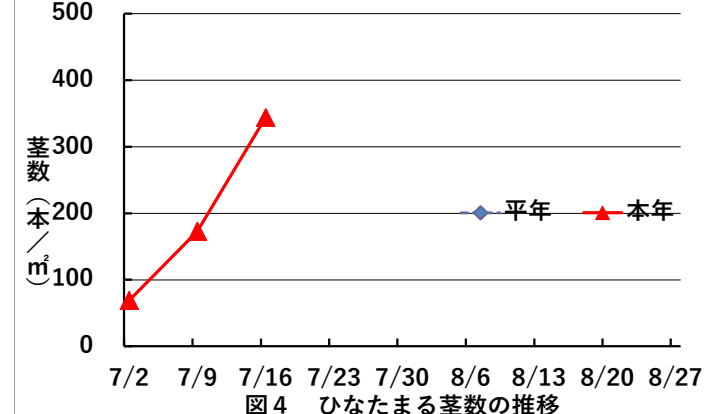
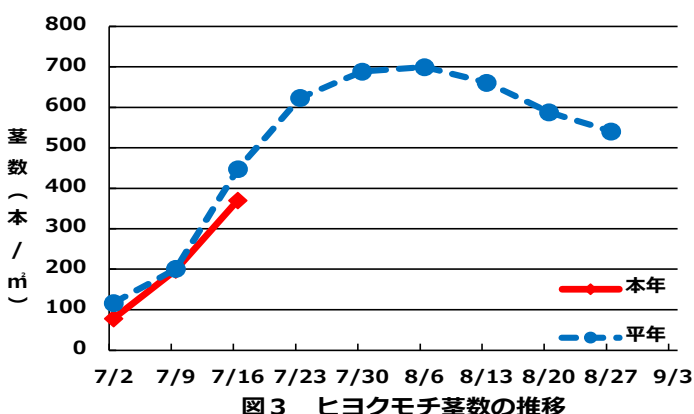
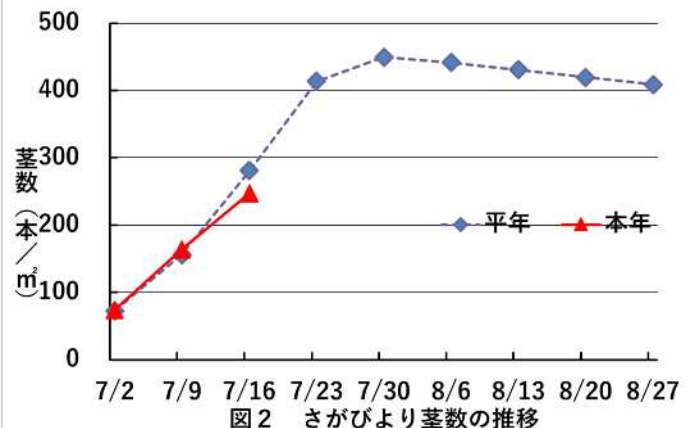
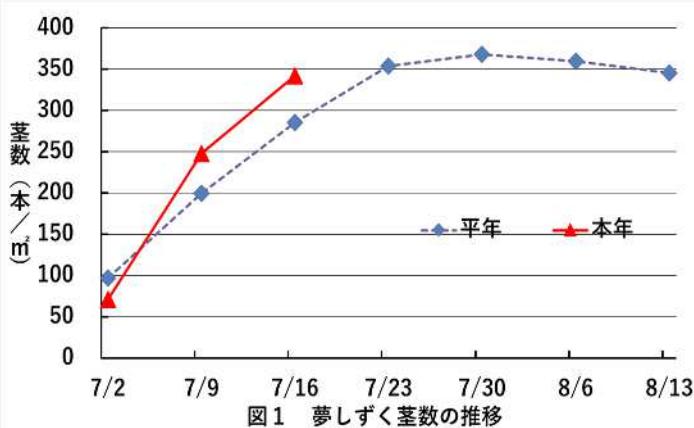
品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	葉 齢	SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.0株/㎡	本 年 平 年 平年比	51.3 50.6 (101)	342 286 (120)	9.6 9.2 (+0.4)	43.0 41.1 (+1.9)	6月27日の梅雨明け以降、 平年より高温・多照で経過 している。 ○草丈は「夢しずく」で平 年並み、「さがびより」「 ヒヨクモチ」は平年よりや や低い。 ○茎数は「夢しずく」が平 年より多く、「さがびより 」、「ヒヨクモチ」で平年 よりやや少ない。 ○葉齢は「夢しずく」で平 年よりやや進んでおり、「 ヒヨクモチ」で平年並み、 「さがびより」で平年より やや遅れている。
さがびより 小城市芦刈町	6/22 18.4株/㎡	本 年 平 年 平年比	37.8 41.6 (91)	247 281 (88)	8.3 8.9 (-0.6)	36.5 39.9 (-3.4)	
ヒヨクモチ 神崎市千代田町	6/20 16.0株/㎡	本 年 平 年 平年比	32.9 36.9 (89)	370 447 (83)	9.4 9.6 (-0.2)	39.6 41.8 (-2.2)	
ひなたまる 佐賀市大和町	6/20 18.4株/㎡	本 年 平 年 平年比	39.4 - -	344 - -	9.2 - -	42.3 - -	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注3) 平年値は、過去10年間（H27～R6）の平均値（さがびよりについては、R1年を除く H27年～R6年の平均値）

注4) ヒヨクモチは昨年度から神崎町のデータを用いています

注5) ひなたまるはR7年から作付けのため、本年のみの記載になります。



◆農業試験研究センター米づくり情報3号 7月16日（抜粋）

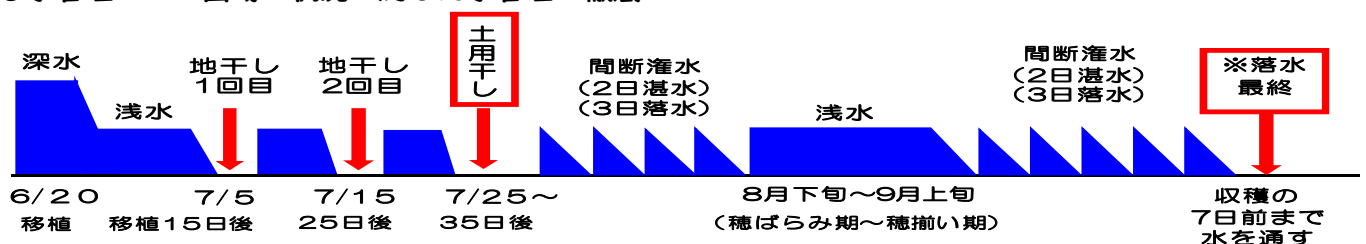
移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本／㎡	葉 齢 L	葉色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年	50.4	331	9.2	41.0	【気象】 7月9日～15日まで ◆平均気温…2.4℃高い ◆日照時間…長い (平年比 140%) ◆降水量…少ない (平年比 12%) 【生育】 ◆草丈 「ヒノヒカリ」はやや高く、その他の品種は高い。 ◆茎数 「夢しずく」でやや多く、その他の品種は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」はやや進んでいる、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は進んでいる。 ◆葉色(SPAD 値) 「さがびより」、「ヒヨクモチ」はやや濃い、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は濃い。
		平 年	45.0	318	9.0	31.1	
		平年比(差)	112	104	(+0.2)	(+9.9)	
	ヒノヒカリ	本 年	40.4	464	9.7	42.6	
		平 年	38.9	431	9.1	40.3	
		平年比(差)	104	108	(+0.6)	(+2.3)	
ひなたまる	本 年	50.3	451	10.0	45.9		
	前 年	44.9	273	9.6	42.8		
	前年比(差)	112	165	(+0.4)	(+3.1)		
6月20日	さがびより	本 年	41.7	420	9.4	41.7	
		平 年	38.8	315	8.9	40.9	
		平年比(差)	107	133	(+0.5)	(+0.8)	
	ヒヨクモチ	本 年	38.3	742	9.8	43.2	
		平 年	35.9	560	9.5	41.6	
		平年比(差)	107	133	(+0.3)	(+1.6)	
留意点	○必要な茎数が確保された品種は、中干しを実施する。「夢しずく」は7月下旬頃に幼穂形成期となるため、それまでに中干しを終了する。 ○生育量が例年に至っていない、茎数が少ない圃場は浅水・間断灌水管理により、できるだけ茎数の確保に努める。その際の中干しは時期を遅らせ、やや軽めにとどめる。 ○トビイロウンカ及びコブノメイガの発生に注意し、適期防除に備える。						

※耕種概要等は前号参照。

2. 水稻における今後の管理

今後も気温の高い日が続き、降水量は平年並みかやや少ない予報となっている。特に表層剥離や藻類の多発圃場が多くみられるため、一時落水（黒乾状態を保つ）や夕方～夜間のかけ流し灌漑を実施する。

○水管理 ～ 圃場の状況に応じた水管理の徹底 ～



「夢しずく」

- ・早植えの「夢しずく」（5月下旬～6月上旬移植）は、間もなく幼穂形成期を、普通期の「夢しずく」（6月中旬移植）は、7月中旬頃に幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成期を迎えた圃場は中干しを終え、穂ばらみ期まで「間断冠水（2日湛水3日落水）」を実施する。その後、穂揃い期まで浅水状態で湛水を保つ。

「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」

- ・1株あたり茎数が20本以上確保できた圃場は、下の表1を参考に「中干し」を実施する。

表1 品種別の中干し時期

品種	目標穂数 本/㎡	有効茎数（中干し時期）		
		50株/坪（15.2株/㎡）	60株/坪（18.2株/㎡）	70株/坪（18.2株/㎡）
夢しずく	360	24本/株	20本/株	—
コシヒカリ	370	24本/株	20本/株	—
ひなたまる	340	—	19本/株	16本/株
さがびより	370	24本/株	20本/株	—
ヒヨクモチ	440	25本/株	24本/株	—

注1) 茎数が20本/株以上確保できていない圃場では、分けつ確保のため、浅水管理を基本とする。

注2) 幼穂形成期は、「ひなたまる」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」で8月上旬頃、「ヒヨクモチ」で8月中旬頃となるため、8月上旬までは中干しを終える。

○調査田の生育状況（中干し時期の圃場のようす ～写真を参考に中干し時期を決定する～）



写真1 「夢しずく」情報田（7/15撮影 約20本/株）



写真2 「さがびより」情報田（7/15撮影 約13本/株）



写真3 「ひなたまる」展示圃（7/15撮影 約20本/株）



写真4 茎数20本程度の株

○雑草防除

- ・除草剤散布ができなかった圃場や散布が遅れた圃場、及び処理後に田面が露出した圃場などでは、放置するとヒエや広葉雑草が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。なお、藻類や表層剥離が多発し除草効果の低下が懸念される圃場でも、ヒエや広葉雑草の発生が懸念されるため、圃場の状況を確認し、中後期除草剤との体系処理を検討する。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー I 粒剤	移植後 7 日～ヒエ 4L 但し、収穫 30 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後 20 日～ヒエ 6L 但し、収穫 30 日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン I 粒剤	移植後 15 日～ヒエ 4L 但し、収穫 45 日前まで	湛水散布（3～4 日は湛水）
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 60 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低 3 日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15 日～55 日 但し収穫 50 日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいのでタ方散布。
ヒエ類 および 広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15 日～ヒエ 5L 但し収穫 50 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。最低 3 日間入落水しない。高温条件下では、薬害が生じやすいのでタ方散布。（展着剤無加用）
	フォローアップ I 粒剤	移植後 15 日～ヒエ 5L （稲 4 葉期以降） 但し、収穫 60 日前まで	湛水散布（3～5 日は湛水）
	ワイドアタック SC	移植後 20 日～ヒエ 6L （稲 5 葉期以降） 但し、収穫 30 日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。（展着剤無加用）
	ロイヤント乳剤	移植後 20 日～ヒエ 5L 但し、収穫 45 日前まで	落水散布～ごく浅く湛水散布。

○穂肥（「夢しずく」）

- ・早植えの夢しずく（5 月下旬～6 月上旬移植）では、穂肥施用時期に達している（幼穂長 1～5 mm 程度）。
- ・普通期の夢しずく（6 月中旬移植）では、間もなく幼穂形成期を迎える。
- ・幼穂形成期を迎えた圃場は中干しを終え、穂肥施用時は湛水し、その後地固めと根に空気を送るため、穂ばらみ期まで「間断冠水（2 日湛水 3 日落水）」を実施する。なお、施用時期が遅れないように表 1 の穂肥診断基準（草丈・葉色・幼穂長の確認）に基づき、穂肥を施用する。
- ・いもち病が発生している圃場は、穂肥施用によりいもち病の発生を助長する可能性があるため、施用にあたっては十分注意する。

表 1. 「夢しずく」穂肥診断基準

幼穂形成始期の 草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1 mm	3.0	20.0
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2 mm	3.0	20.0
	3.5～3.8	38～39	15～14日	10-15mm	1.6	10.0
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6.0
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2 mm	1.6	10.0
	3.5～3.8	38～39	14～15日	10-15mm	1.0	6.0
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1 mm）を基点に、前後 1 日あたり 1 cm 増減する。

※出穂前 15 日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない

○中間追肥 ～ヒノヒカリ、ヒヨクモチ～

- ・元肥に即効性の肥料（BB480 等）を使用した場合は次の通り。

「ヒノヒカリ」：7/5～10頃、窒素成分で2.0 kg/10a（BB480：15kg/10a）程度

「ヒヨクモチ」：7/15頃、窒素成分で1.6～2.1 kg/10a（BB480：12～15kg/10a）程度

○病害虫情報（発生および防除）

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月16日～23日に飛来が確認されている。
- ・コブノメイガは6月16日頃から飛来が確認されている。
- ・今後、飛来があった場合は、それぞれの地区・品種別に発生状況を確認し、防除時期の判断・適期防除に努める。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認してください。 [佐賀県 農業技術防除センター](#)

トビイロウンカ防除適期

1回目 8/6～8/12

2回目 9/5～9/11

コブノメイガ防除適期

1回目 8/5～8/14

2回目 9/8～9/18



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測（第1版、2025年7月2日作成）



図2 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2025年7月2日作成）

3.大豆における今後の管理

1 大豆の生育状況

- ・7月上旬に播種した圃場では、出芽期～初生葉の展開期となっている。
- ・現在、多くの圃場で播種作業が進んでおり、播種深と土壌水分が適正な状況で播種された圃場では、播種後5日程度で出芽期を迎えると考えられる。



写真1 生育状況（7/16撮影 7月上旬播種）



写真2 生育状況（7/15撮影 7月10日播種）

- ・気象予報を見ると今週末は降雨が予測されているが、20日以降は晴天が続く予報となっているため、今後、播種作業を行う圃場では、圃場が耕起可能な状態になれば直ちに播種できるよう準備を行う。

参考）週間天気予報（佐賀県：7月16日11時時点 佐賀地方气象台より）

17日(木)	18日(金)	19日(土)	20日(日)	21日(月)	22日(火)	23日(水)
曇後雨 	曇一時雨 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇

2 播種

- ・大豆の播種適期は7月上中旬であるが、それ以降の播種は生育量の確保が難しくなるため、播種機を設定し栽植密度等を調整する必要がある。

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
7/16～7/25 ※3条は7/20以降	18本 20本	(2条)75cm×15cm×2本 (3条)50cm×20cm×2本	5～6kg	—
7/26～7/31	24本 27本	(2条)75cm×11cm×2本 (3条)50cm×15cm×2本	7～8kg	4～6kg

- ・不安定な気象条件下で、大豆の安定・多収を目指すため、

- ① 適度な土壌水分確保と播種時期に応じた播種様式の調整＝「発芽・苗立ちの確保」
- ② 生育期間中の適正な土壌水分の保持＝「着莢数の確保、粒肥大」「適切な雑草防除」が重要

3 播種における主な留意点

- ・土中での種子の腐敗リスクを軽減するために、種子消毒（クルザーMAXX、キヒゲン R2 フロアブル）等を徹底し、発芽率向上に努める。

○乾燥時

- 1) 荒起しは、なるべく播種当日に行い、播種後に晴天が続く予報であれば、乾燥による発芽率低下が懸念されたため、荒起こしと播種耕起の間隔は空けないようにする。
(「4 干ばつ対策について」を参照)
- 2) 播種深度は、播種後に晴天が続く場合は 5cm 前後の深めにして鎮圧を行う。

○湿潤時

- 1) 大豆は播種後 2 日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下するため、大雨が予想される場合は播種を延期する（無理して播種しない、平うねの場合は深播きしない）。
- 2) 播種深度は、播種後に降雨が続く予報の場合 2 cm 程度の浅めとし播種後の鎮圧は行わない。
- 3) 土壌水分が高く、耕起できない場合は麦うねを利用し、耕起を行わず直接麦うねに播種する部分浅耕播種や不耕起播種、逆転ロータリを活用した播種等の技術で播種する。
- 4) 播種作業には、「うね盛り板」をロータリに装着してうね立て播種すれば、表面排水が良くなるため、滞水による出芽不良を軽減できる。また、小うね立て播種ではさらに効果が高い。

※ 大豆は湿害を受けやすいので、播種時の乾湿に係らず、播種完了時に必ず圃場の周囲に排水路を整備する。

4 干ばつ対策について（梅雨明け後、降雨が見込めない状況の場合）

1) 播種前対策

晴天が続き高温乾燥が予測される場合、コルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効である。

◆大豆生育期間中に必要な水量



播種前～出芽期は
排水対策

暗渠排水の栓を閉めるなどして
土壌水分を確保



大量の水を必要とする
ため干ばつが予想され
る場合は灌漑が必要

コルゲート管の閉栓

2) 播種後対策（大豆を播種したものの、1週間程度経過しても出芽していない場合）

（1）播種後、7日程度経過した圃場では、土中の種子を掘り返し、種子の状態を確認する。

- ① 土中で出芽後に乾燥している場合、出芽しない可能性が高いため、再播種の必要がある。
- ② 播種時と変わらない種子の状態、降雨が期待できない場合、うね間灌水（注1）を検討する。

注1：うね間灌水は、夕方、日が陰ったあとに圃場に入水し、圃場に水が行き渡ったらすぐに落水し、少なくとも翌朝には完全に落水させる。日中の灌水は、高温・多湿により種子が腐敗し易い。

（2）播種してから間もない圃場で、播種深度が想定より浅く種子周辺の土壌が乾燥している場合、梅雨明け後は高温・乾燥が続くため、速やかに畝間へ灌水しその後、速やかな排水を行う。

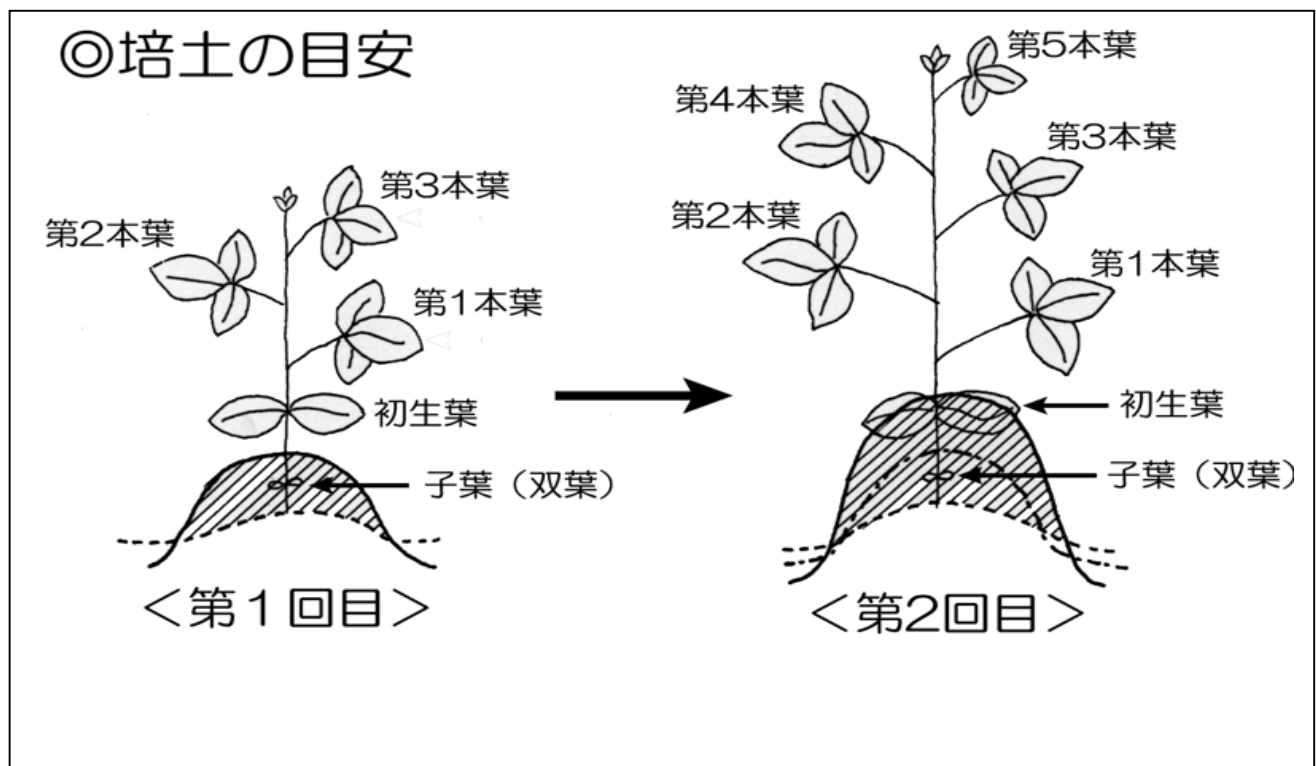
なお、平うねでの灌水は排水が遅延することから種子の腐敗を招くことが多いので、うね溝を設けるなどの事前作業を実施する。

注2：うね間かん水後は雑草の発生が多くなるため早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

5 中耕・培土の実施

・7月上旬播種：7月下旬には1回目の培土時期を迎える。本葉が3枚開いているのを確認したら子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。

特に、降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。



6 雑草防除

1) 播種前対策

「ラウンドアップ」「プリグロックス」など非選択性茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

2) 播種後対策

播種直後に土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオ WGD」が効果的である。

アサガオ類の発生が多い圃場では、「トレファノサイド乳剤」播種直前土壌混和处理で発生量を減らすことができる。

土壌処理除草剤の効果を高めるため、碎土・整地を丁寧に行い、播種後の鎮圧を必ず実施する。液剤の場合は、使用基準内で、多めの散布水量で散布する。

なお、播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

3) 難防除雑草への対応

アサガオ類やホオズキ類の難防除雑草の発生が多い地域では、圃場内侵入防止に努め、見つけ次第手で抜き取る。

圃場内に発生している場合、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット処理や手取りの防除に努める。
注3) 既にアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の播種直前土壌混和处理(播種前に 200~300 ml/10a 散布→速やかに荒起→播種)で密度を低減できる。

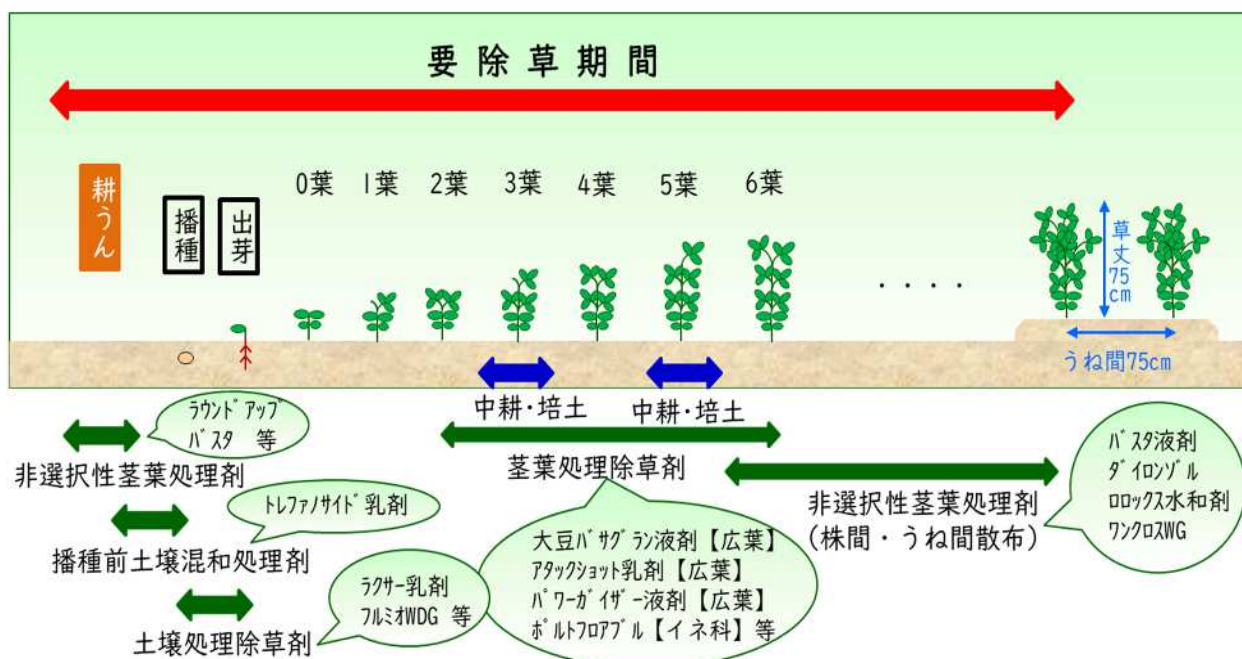
ツユクサ類(近年、特にカロライナツユクサが蔓延)は土壌処理剤の効果が十分ではないため、「プリグロックスL」や茎葉処理剤(大豆バサグラン等)での除草を基本とする。

4) 大豆は初期生育が早く、大豆の茎葉が繁茂することで雑草発生を抑制できるので、

雑草の発生が少なければ、大豆生育期(2~5葉期)に中耕培土で防除が可能である。

※降雨等で除草剤の散布ができなかった圃場では、早めの中耕培土で雑草対策を行う。

■除草技術と実施時期の目安



令和7年産水稻・大豆生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

